

本時の見どころ

「世界からみた日本のすがた」と「身近な地域の調査」を通して、災害から身を守るための学習を行います。昨年度起きた熊本地震から「ハザードマップ」を作成し、地理的な見方・考え方、多面的・多角的な考えにもとづき、「自然災害からの防災・減災教育」について学んでいきます。生徒が意欲を持って学習に取り組み、協働学習を通して学び合う姿を見ていただきたいと思います。

社会科(地理的分野)学習指導案

期 日 平成29年11月17日(金) 第2校時
場 所 熊本市立京陵中学校 2年1教室
年 組 熊本市立京陵中学校 2年1組 計34名
指導者 熊本市立京陵中学校 教諭 西田 淳

1 単元名 第2章 世界からみた日本のすがた 第4章 身近な地域の調査
(教育出版 p.137～160, 251～265)

2 単元について

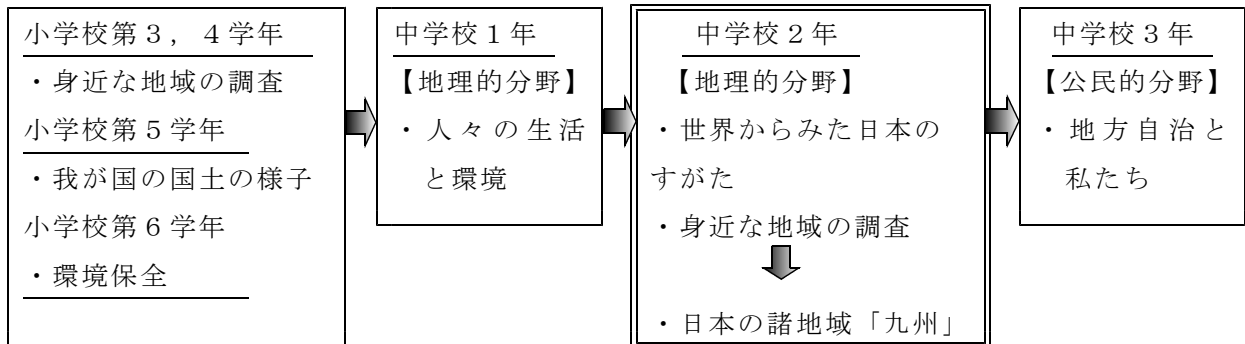
(1) 単元観

本単元は、学習指導要領「内容」(2)「日本の様々な地域」の「イ 世界と比べた日本の地域的特色」と「エ 身近な地域の調査」にあたる。このうち(2)イでは、日本及び日本の諸地域の地域的特色をとらえる学習を通して、国土の認識を深めることをねらいとしている。また、エでは直接経験地域の地理的事象を学習対象として、観察や調査などの活動を通して、身近な地域に対する理解と関心を深めさせる。

日本は環太平洋造山帯に属し、降水量も多く、地震をはじめ災害が多く発生する自然的特色がある。平成28年熊本地震は、未曾有の大災害となった。身近な地域で起きた災害とメディアから伝えられる情報によって、地域住民のみならず、生徒の防災に対する関心は大きく高まっていった。現在も本校とその周辺の被災地の復旧・復興はその途中であり、災害は今も完全に終わったわけではない。

今回、社会科の視点から地域の調査・分析および災害に対する備えについて多面的・多角的に考察する。これからの社会に生きる子ども達に、防災・減災の意識を高め行動できる力を育成するのは、大変重要である。その中において、社会科は地理的な見方や考え方を通して自然の特色から防災・減災について学ぶことができる点で意義深い。

(2) 系統観



(3) 生徒観（男子18名，女子16名，計34名）

本校は熊本地震の際，避難所となり，学校再開が5月9日であった。それまでの間，小学校や車中に避難をしたり，ボランティア活動に励んだりした生徒もいる。

本学級は34名のクラスである。男女仲良く，明るく活発である。4月当初は緊張感もあったが，体育大会や総合的な学習の時間，特別の教科「道徳」を通して，様々な活動を行う中で，意欲的に学習活動に励んでいる。社会科の授業に関しては，学力に差があり，自ら進んで発表できる生徒もいれば，基礎的・基本的な用語も理解できていない生徒もいる。そこで，社会科の授業では，ペアや班活動の中でもお互いの意見を出し合うことで，その差をなくすようにしてる。このように協働学習を行うことで社会科の学習に関しては比較的関心は高く，進んで学習に取り組もうとしている。

アンケートの結果，本単元に関係する生徒の実態は以下の通りである。

<p>①地理の学習で「わかった」と感じるときは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その地域の様子がわかったとき 28% ・地理の用語がわかったとき 12% ・地理の中で，出来事のつながりがわかったとき 53% ・その地域の人々の気持ちがわかったとき 7% 	<p>②自分の考えをまとめ，発表する学習は好きですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好き 41% ・きれい 12% ・どちらでもない 47% 	<p>③発表しやすくなる方法は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで考える学習 85% ・相手の考えを聞く学習 6% ・自分の考えを話す学習 0% ・自分の考えを書く学習 9%
<p>④熊本地震からの復興は進んでいると思いますか？（左は割合，右はその理由）</p>		
<p>・進んでいる 81%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震で崩れそうになっている家や道路を直しているから。 ・熊本地震が起きたときなどは，自分のことだけを考えて，人のことを考えられずに精いっぱいだったけど，今は少しずつ周りを見られるようになってきたから。 ・地震前と変わらない生活ができているから。 ・ブルーシートに覆われている家や崩れたままになった建物が最近減ってきたから。 ・地震で立ち入り禁止だった店などが再開したり，部活の大会も去年はなかったのが，今年はそれが一度もないので。 	
<p>・あまり進んでいない 19%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家の隣のあるマンションが崩れ，未だに放置されたままだから。建物の解体作業があまり進んでいない。 ・人同士の復興は進んでいても，建物の復興はあまり進んでいないから。片方の復興だけ進んでいても復興が完ぺきに進んでいるとはいえないから。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本城を中心に市街地は復興しているように見える。しかし、益城、阿蘇地区はあまり進んでいないように見える。地震から逃れるために出て行った人が帰ってこないのも復興が進んでいない証。また、大切な観光客がこなくなったことも地震の爪痕だと思うから。 	
・全く進んでいない	0%	
⑤ハザードマップについて	⑥自分の家の周辺に危険な箇所はありますか	⑦どんな危険箇所ですか
<ul style="list-style-type: none"> ・知っている（説明できる） 19% ・見たことはある 6% ・聞いたことはある 41% ・知らない 34% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある 19% ・ない 56% ・わからない 25% 	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水 1 ・土砂くずれ 4 ・地盤沈下 1
⑧熊本地震の時の避難場所はどこでしたか。	⑨熊本地震の時に、ボランティア活動をしましたか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・自宅 12% ・小学校 16% ・中学校 3% ・車 66% ・公園 0% ・その他（親戚宅） 3% 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 28% ・いいえ 72% <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壺川小学校で物資を配ったり、清掃活動を行った。 ・高平台小学校でおにぎり作りを手伝った。 ・池田小学校で届いた食べ物を配った。 ・京陵中学校での音楽室での片付けをした。 ・益城町へ行き、瓦の撤去作業をした。 	

学習形態に関するアンケートからグループで考える学習が発表しやすいと答える生徒が多いことから、授業の中でも、協働学習を取り入れ協力させることで深みある学習にしたい。また、生徒たちのアンケート結果からもわかるように、震災後の復興に向けては、多くの生徒が進んでいると答えている。熊本地震の最中でも、各小学校や益城などへ行き、ボランティア活動に励んだ生徒も多い。

また、復興が進んでいると考えている生徒がいる一方で、不便な生活を送っていたり、益城や阿蘇などの地域、経済的な面から復興が進んでいないと答える生徒もいる。

ハザードマップについては、具体的に知らない生徒も多く、自分の家の周辺には危険箇所がないと思っている生徒が多い。そこで、実際にまち歩きを行い、地理的な見方や考え方を養いながら、ハザードマップを作成することで、様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。そして、多面的・多角的な視点から「災害から自分の命を守る」と、「地域の一員としての自覚を高め、助けられる人から助ける人になる」という選択・判断する力を養うことができる学習を進めていきたい。

(4) 指導観

熊本地震・ハザードマップ作成を通して、身近な地域の中にある日常の生活圏や行動圏である学区「京陵校区」を見つめ、「災害から身を守る」を題材として「防災・減災教育」を取り扱うこととした。この題材を取り扱うことで学校、地域社会、関係機関との連携があって地域の防災が成り立つことを理解させたい。この学習において「災害から自分の命を守る」「地域の一員としての自覚を高め、助けられる人から助ける人になる」という具体的な意識の深まりにつながる。また、G Tと具体的な意見を交わすことで、研究主題「民主主義の担い手に必要な資質・能力を育む社会科の探究」に迫る活動につなげていきたい。

本単元の指導にあたっては、次の点に留意する。

- ・ハザードマップやその他の資料を読み取る時間を十分にとり、多面的・多角的に考察する学習活動を通して、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- ・支援を必要とする生徒への手だてとして、授業の流れがわかる板書やワークシートを心がけ、I C T機器を使うことで視覚的に捉える工夫を図る。
- ・個人で考える場面からグループで意見を交換する場面を設定し、そのグループの意見を取り入れて、自分の考えを深めていく活動を設定する。
- ・G T（ゲストティーチャー）と意見交換をすることで、学習内容をより身近なものとして認識させ、理解を深めさせる。
- ・被災している生徒へ授業を行うにあたって面談を行い、心身の配慮を心がける。
- ・この単元で取り扱う自然災害は特別の教科道徳や公民的分野にもつながっており、これから生きていく上で、「自助・公助・共助」が大切であることを意識させる。

3 単元の目標

社会科事象への 関心・意欲・態度	【世界からみた日本のすがた】 世界と比べた日本の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえさせる。
	【身近な地域の調査】 身近な地域の調査とその地域的特色や地域の課題に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえさせる。
社会的な 思考・判断・表現	【世界からみた日本のすがた】 世界と比べた日本の地域的特色を、世界的視野や日本全体の視野から見た自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結びつきをもとに多面的・多角的に考察させ、その過程や結果を適切に表現させる。
	【身近な地域の調査】 身近な地域の地理的事象から課題を見だし、身近な地域の調査を行う際の視点や方法をもとに多面的・多角的に考察させ、公正に判断して、その過程や結果を地理的なまとめ方や発表の方法により適切に表現させる。
	【世界からみた日本のすがた】 世界と比べた日本の地域的特色に関するさまざまな資料から、

資料活用の技能	有用な情報を適切に選択させ、読み取ったり図表などにまとめさせる。
	【身近な地域の調査】 身近な地域の調査とその地域的特色や地域の課題に関するさまざまな資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、読み取らせ、図表にまとめさせる。
社会的事象についての知識・理解	【世界からみた日本のすがた】 世界と比べた日本の地域的特色について、世界的視野や日本全体の視野からみた自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結びつきを理解させ、その知識を身につけさせる。
	【身近な地域の調査】 身近な地域の調査について、地域的特色や地域の課題とともに、身近な地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を理解させ、その知識を身に付けさせる。

4 単元の指導計画と評価（規準）計画 （全16時間 本時 15/16）

次	時	主な学習活動	評価基準(評価基準をBとする)
単元を貫く課題：『日本のさまざまな特色について見つめる中で、災害から身を守るためにできることを熊本地震から考える。』			
1	1	「世界の人口分布と変化」 ・世界の人口分布と自然環境との関係、先進国と発展途上国による人口変化の違いについて理解する。	世界の人口密度を示した図からアジアやヨーロッパに人口が集中していること、世界の人口の変化のグラフから世界の人口は増加し続け、特に産業革命以後に急速に増加してきていることをとらえようとしている。 (ワークシート)【関心・意欲・態度】
2	1	「日本の人口分布と課題」 ・日本の少子化・高齢化によって、今後予想される課題について考えることができる。	日本の過密・過疎の問題と少子高齢化について、なぜそうした傾向が生じるのか、今後どのような課題が予想されるのか、様々な観点から考察している。 (ワークシート)【思考・判断力・表現力】
3	1	「資源・エネルギーのかたよる分布」 ・世界の資源の分布や、日本は外国からの資源輸入に依存していることを理解する。	世界の資源分布には偏りがあり、日本は多くの資源について輸入に頼っていることや、国内の発電所の立地についてその特色や課題を理解している。 (ワークシート, ノート)【知識・理解】
4	1	「産業の構成とその変化」 ・日本の各産業の特色に	「日本の産業別人口構成の割合の変化」から、日本の産業構造の変化を考察し、各産業の現状とそ

		ついて、その理由も考えることができる。	の要因について適切に表現している。 (ワークシート)【思考・判断・表現力】
5	1	「結びつきを強める世界と日本」 ・世界の国々は交通や通信、貿易によって強く結びついていることを理解する。	I C Tの発達により社会生活が変化しつつあることに気づき、情報科が進んだことに関心を持ち、どのような結びつきがあるかを捉えようとしている。 (発表)【関心・意欲・態度】
6	1	「変動する大地と安定した大地」 ・世界の中で日本が不安定な地盤に位置することや、環太平洋造山帯に位置することを理解する。	世界には火山・地震活動が活発な造山帯と、活動の少ない安定した大陸があることの興味をもち、地球規模での地形の動きをとらえようとしている。 (発表)【関心・意欲・態度】
7	1	「変化に富む日本列島の地形」 ・日本の山地や火山、平野や河川の分布とそれらの名称を理解する。	日本の主な山地・山脈や平野・河川の分布、扇状地・三角州の成因、海岸の種類など、地形からみた地域的特色について理解している。 (ワークシート)【知識・理解】
8	1	「四季のある気候」 ・日本の気候区分図から、熊本市や各地域の気候の特色について考えることができる。	熊本市やその他の地域の気温と降水量のグラフや気候区分図を読み取ったり、各気候と緯度や海流との関係をまとめたりしている。 (ワークシート)【資料活用の技能】
9	1	「地形図を使って地形をみていこう」 ・地形図に表現される方位、地図記号、等高線のしくみについて覚え、読み取ることができる。	地形図の方位、地図記号、等高線のしくみについて理解し、それをもとにさまざまな自然環境を読み解いていく技術を身に付けている。 (ワークシート)【知識・理解】
10	1	「地域をながめて」 ・身近な地域である熊本市に対して関心を高め、注意しながら観察しようとしている。	熊本市(京陵校区)の地域観察を通して、地形図と実際の風景の関係や疑問点を指摘している。 (ワークシート)【社会的な思考・判断・表現】
11	1	「地形図の見方を知ろう」 ・熊本市の地図から、縮尺とそれに応じた表現の違いについて理解し、読み取ることができる。	熊本市(京陵校区)の地図を活用し、縮尺をふまえて、地図上の長さや実際の距離の関係をとらえ、必要な情報を読み取っている。 (ワークシート)【資料活用の技能】

12	1	「自然がもたらす災害と向き合う」 ・日本で発生するさまざまな自然災害と、そのしくみなどの特徴を理解することができる。	「日本周辺の主な地震と活断層の分布図」から、プレートや活断層の分布との関係を読み取ったり、火砕流・土石流などの災害の種類についてまとめている。 (ワークシート)【資料活用の技能】
13	1	「地域版ハザードマップを作成しよう」 ・熊本市区役所の方と一緒に町歩きをして、ハザードマップを作成しよう。	地形図や景観写真、まち歩きから得た情報を適切に整理している。 (ハザードマップ)【資料活用の技能】
14	1	「発表会を開こう」 ・各校区で調べた危険箇所をまとめ、クラスで共有するための発表会をしよう。	調査結果の表現方法を適切に選択し、手法に応じてわかりやすくまとめ、表現している。 (ハザードマップ) 【社会的な思考・判断・表現】
15	1 本 時	「災害から身を守るために～熊本地震・ハザードマップ作成」を通しての防災・減災教育～ ・ハザードマップを通して、校区の防災のポイントについて考えることができる。	自然環境の特色から様々な災害への対応や対策について考え、災害時に適切に行動できる意識を高める。 (ワークシート)【関心・意欲・態度】
16	1	「災害から身を守るために」 ・熊本地震とハザードマップから、さまざまな災害への対応、支援、復興への対策について考えることができる。	自然災害から身を守るための考え方として、防災と減災、公助・自助・共助という言葉についてまとめ、説明している。(ワークシート)【思考・判断・表現力】

4 本時の学習

(1) 本時の目標・内容・方法

目標	自然環境の特色から様々な災害への対応や対策について考え、災害時に適切に行動できる意識を高める。
内容	ハザードマップの読み取りを行い、京陵校区における地形の特色や想定される自然災害について取り上げる。
方法	ハザードマップの読み取りを行い、互いに意見交流するとともに専門家の意見を聞く。

(2) 本時の展開

過程	時間	主な学習活動	学習形態	○教師の指導 ・予想される生徒の反応	教材 資料等
導入	2	1 これまでの学習をふり返り，本時の学習内容を確認する。	一斉	○これまでの学習をふり返らせる。 西里，池田，高平台，壺川の小学校校区のハザードマップから	
	6	2 校区ごとのハザードマップから気づいたことを発表する。	一斉	○校区ごとのハザードマップから気づいたことを発表する。 ・高平台校区は崖崩れが多い。 ・壺川校区は浸水の危険がある。 ・校区によって，災害による危険な箇所が違う。	
展開	5	3 G Tによるハザードマップの評価を聞く。	一斉	○G Tに地形以外の着目点に気づかせるように話をしてもらう。	応用紙 雨温図 昼夜間 人口 ホワイトボード
	15	4 いろんな状況を予想する。	個 班	・天気も影響するのでは？ ○熊本地震が6月だったら，登校時間だったらどうなっただろうかと投げかける。	
	10	5 意見を発表する。	一斉	・梅雨の時期だから土砂くずれ，洪水の危険があった。 ○災害時の季節，時間も考えることが大切であることに気づかせる。	
まとめ	12	5 G Tの話聞く。(3分)	一斉	○ハザードマップや，これから起こるかもしれない自然災害への対応について話してもらう。	ワークシート 【評価】
		6 本時の学びをワークシートに記入し，発表する。	個 一斉	○ワークシートに学んだことを書かせ，発表させる。	

(3) 本時の評価

場面	評価基準
評価	A：熊本地震・ハザードマップ作成を通じて，自然環境から見たポイント（災害の種類，地形，季節，時間帯）をふまえ，身近で起こりやすい災害について考え，災害時に適切に行動できる意識を高めている。 B：熊本地震・ハザードマップ作成を通じて，身近で起こりやすい災害について考え，災害時に適切に行動できる意識を高めている。